

2018 Smart Service Summit & the 6th Matchmaking Conference

2018年 京交会 報告

2018年5月30日(水)、北京 National Convention Centerにて「2018 Smart Service Summit & the 6th Matchmaking Conference(通称：京交会)」が行われた。テーマは「スマート製造を支えるスマートサービス」。中国の製造業において進化するスマートサービスについての講演・展示会が行われた。

午前は基調講演として、Qingdao Haier Industrial Intelligence Institute (ハイアール社)、China Auto Parts & Accessories Investment Holdings Corp、BAIC グループ、Thunder Soft といった企業から講演があった。



左：北京市政府と参加企業の調印式 右：サンダーソフト社による講演の様子

内容としてはハイアール社やサンダーソフト社から発表があった「ユーザが製造段階から関わる時代」という中国企業のスタンスが目立った。1年後には変わる製品へのニーズのスピードに対応するために、大量生産ではなくオーダーメイドのように個人のニーズへ対応した製造を目指すとのことであり、「個別化」及び「国産化」への意識が強く感じられた。

午後からは ICT の国際動向と題し、JISA グローバルビジネス部会の CAC 大須賀部会長より「日本の情報サービス産業の動向 デジタルトランスフォーメーションが拓く新たな世界」と題して発表があった。特に日本の労働人口減少問題、女性の労働参加率の低さの問題を取り上げたうえで、日本の AI の導入意識についての発表があった。その他、インド NASSCOM からの発表や、午前中に発表行った講演者らによるパネルディスカッションが行われた。



左：大須賀部会長による講演の様子



右：パネルディスカッションの様子



左：会場内の展示



右：会場内全体の様子

中国の現状として、Google 製品 (Gmail 等)、Twitter、Line、Facebook といった日本人が広く使っているツールに対し、中国のネットワークを使用して接続しようとする政府によるネット検閲システム (グレートファイアウォール) が入りアクセスできない。中国ではその代わりに百度 (バイドゥ) という名の検索エンジンや微信 (ウィチャット) というメッセージアプリが非常に発達し、国産のシステムが育っているように感じた。

(會木)